

教養コース ④ 国際社会学

「朝鮮半島の歴史と現在と日本」

第5回 最近の朝鮮半島平和体制に向けた動きと展望

日時；2019年10月5日 10時～12時

会場：鶴瀬公民館 いきいき活動室

講師：高林敏之氏（立教大学・早稲田大学講師）

受講者数；29人

本日（10/5）は、期せずして、2月の首脳会談以来の「米朝実務者協議」がストックホルムで開催される日だった。（結果は、「認識」に食い違いがあり決裂）

最終回となった今回は、半島の平和体制に向けた展望として、朝鮮半島対話プロセスの展開／朝鮮半島対話プロセスの現状／膠着状況の打開は可能か／の三部構成で展開されました。全8頁に及ぶ講義資料は、それぞれの動向を、いつ、どこで、誰が、何を、が克明に記述されており、受講者には大変参考になるものでした。

講義の主要箇所と受講者の感想を、以下に記載いたします。

1. 朝鮮半島対話プロセスの展開－首脳会議を中心に

- ・始まりは平昌五輪で、南北首脳がスポーツ分野の南北交流活性化に意欲。
- ・2018年4月には、板門店南側「平和の家」で南北首脳会談。「板門店宣言」で、終戦を宣言し、平和体制を構築、完全な非核化を通して核のない朝鮮半島を実現するという共通の目標を確認。
- ・2018年6月、シンガポールで、第1回米朝首脳会談。その共同合意文は、米国が北に安全保障を提供すること、北は朝鮮半島の完全な非核化の意思を再確認して、4項目に合意。
- ・2018年9月、米朝交渉膠着の中、平壤で南北首脳会談。「平壤共同宣言」で、板門店宣言を履行し発展させる民族自主と民族自決の原則をうたう。軍事分野の合意、鉄道および道路連結、文化・芸術分野の交流促進など。南北の主導により終戦状態の既成事実化を図っていく意図。
- ・2019年2月、ハノイで、第2回米朝首脳会談。非核化と制裁との等価

交換に関する米朝間の認識のズレが露呈し、合意文書の発表がなく終わる。

- ・2019年6月、板門店にて、米朝首脳協議、韓国含め3首脳対面。
G20後にトランプが韓国に飛び、板門店で会談。ともに北側に足を踏み入れる。米朝の信頼醸成を進める。

2. 朝鮮半島対話プロセスの現状

- ・ポイントは「DPRKの安全保障」と「朝鮮半島の非核化」の等価交換。
DPRKの核が対米核抑止力の位置づけに対して、米国の「リビア方式」発言は、北が受け入れ不能を表明。
- ・金正恩の非核化の意思は本気。経済建設と核戦力の並進路線の終結および経済建設への総力集中路線を採択。非核化が党と国家の基本方針となる。
- ・文在寅の外交手腕と限界。果敢な外交活動と手腕を示すが、米国と安保理制裁決議に配慮せざるを得ない立場にいること。

3. 膠着状況の打開は可能か

- ・朝鮮半島を歴史的業績としたいトランプ。米本土への核の脅威の除去、在外米軍の駐留経費削減、戦略的にインド太平洋への南方シフト等で。
- ・DPRKの外交体制の再編により、正常な体制が整う。
金正恩はトランプ在任中に不可逆的な平和体制を実現したい。
文在寅が行う南北協力事業の正常化をトランプが容認するなら、膠着状況打破の展望が開ける可能性もありそう。

以上、激動する朝鮮半島の史実（歴史の出来事）を忠実に再現され、ときに歪曲化して報道するマスコミに警鐘を鳴らしていました。

<受講者の感想>

- ・ニュースからは知ることのできない重要な国際情勢の視点を与えられた。
- ・半島情勢の話はとても新鮮、大学らしい内容で、もっと聴かせてほしい。
- ・歴史上の出来事ばかりでなく北朝鮮の一般民衆の生活態度が知りたかった。
- ・その他多数寄せられました。

（報告；佐藤鋭夫）